



廿日市市教委だより

令和元年
12月19日
第8号

～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～

2学期も残りあとわずかとなりました。早いもので、令和元年も終わりを迎えようとしています。先生方にとって、今年はどうのような1年だったのでしょうか。また、新学習指導要領の完全実施も間近に迫り、スムーズな実施に向けて、3学期は各学校において準備を行う必要があります。そういった先の見通しも持ちながら、次の充実した取組につながるまとめをお願いします。



♪「第9回廿日市市中学校「夢・つながり」合唱祭」♪

11月7日(木)ウッドワンさくらびあ大ホールにて、中学校音楽部会と市教委の主催による「夢・つながり」合唱祭が開催されました。宮島中学校3年の宮郷良太さんのスムーズな司会進行のもと、それぞれの学校の持ち味を生かしながら、心を一つに、生徒たちの思いが伝わってくるすばらしい歌声の響く合唱祭となりました。また、歌う前の学校紹介や各校が歌い終わった後の他校からの感想も、歌に込めた思いやその学校の合唱の特徴をよく捉えた心温まる内容ばかりで、歌声と心のつながりを感じる素敵な時間となりました。

最後の全体合唱では、廿日市市イメージソング「緑が空を包む日」を会場の参加者全員で大合唱しました。普段学校では味わえない、ホールに響き渡る歌声に、感動もひとしおでした。

響き合う！歌声と心のハーモニー♪

順	学校名	学年	曲目
1	吉和中	全校(1~2年)	群青
2	宮島中	全校(1~3年)	友よ~この先もずっと...
3	大野中	3年	友~旅立ちの時~
4	大野東中	3年	手紙~拝啓 十五の君へ~
5	廿日市中	2年	HEIWAの鐘
6	野坂中	3年	ヒカリ
7	佐伯中	3年	手紙~拝啓 十五の君へ~
8	四季が丘中	3年	群青
9	阿品台中	3年	正解
10	七尾中	3年	春に

<全体講評> 柴久美子様

<司会者> 宮郷良太さん



歌詞の内容や伝えたい思いが伝わってくる合唱が多くありました。歌のことは、子音で伝え、母音で響かせます。男性パートも女性パートも喉で歌うのではなく、いい響きで歌うといいです

<出場した生徒の感想>

- きれいな歌声だったり、迫力があつたりと学校ごとにいろんな特徴があつておもしろかったです。歌詞の内容がはっきりとわかる合唱が多く、見習いたいと思いました。
- 本番に向けて練習する中で、友達との絆が一層深まったと思います。

<来場された保護者の感想>

- 自分の息子がこんなに一生懸命歌っているのを見て驚き、そして感動しました。

生涯学習フェスティバル

【生涯学習課】

11月2日(土)及び3日(日)の2日間「明日へ向かって輝け廿日市市」をテーマに、第29回廿日市市生涯学習フェスティバルを市役所、ウッドワンさくらびあ、新宮中央公園で開催し、子どもから大人まで多くの方にご来場いただきました。その中から、次のとおり児童、生徒に関係する事業をご紹介します。

1 FMはつかいち 76.1MHz 模擬ラジオ体験

廿日市中学校の生徒が、市役所市民プラザでFMはつかいちの模擬ラジオ体験をしました。最初は慣れないことに戸惑っていた生徒もいましたが、徐々に笑顔も増え、楽しんでいました。

2 VOICE2019 テーマ「その時私の心が動いた」

市内の小中学校の児童、生徒による意見発表会です。テーマに沿って自分の思いを力強く語る児童、生徒の姿は本当に感動しました。

【意見発表した生徒の感想の一部】

「同じ世代の同じ市内の声を直接聞くことができ、表現方法も身ぶり手ぶりを使ったり、言葉を工夫したりと、たくさん学ばせていただきました。貴重な経験をありがとうございました。」

3 令和元年度はつかいちさくら賞(前期)表彰式

生涯学習(教育・スポーツ・文化等)に関して、貢献のあった個人や団体に「はつかいちさくら賞」を授与し、表彰しています。

次の方々を表彰し、功績をたたえました。
広島県立廿日市高等学校 宇都宮 康汰さん(放送)
廿日市市立佐伯中学校 真田 翔さん(馬術)
廿日市市立廿日市小学校 松富 裕輝さん(けん玉)
山陽女学園中等部テニス部

<小学生発表者>

<中学生発表者>



<走り方教室> ー津田小学校にてー

令和元年10月16日(水)、津田小学校において、広島県教育委員会主催の「走り方教室」が開催されました。講師に第8回、10回世界陸上競技選手権大会400mハードル銅メダルの為末 大氏を迎え、専門的な視点からポイントを押さえた「走」の運動について指導を受けました。



体のどこを意識して走るとよいか、ポイントがよく分かった。

ハードルを越えるときはひざを90°にし、また、スタートダッシュでは、頭とひざを前に出して、障子を破る勢いで走り出そう。

一つ一つの運動に意味があることや、体のどの部分を動かしているのかを意識しながら運動することが大切であることなどを、具体的に分かりやすく指導していただきました。

来年2020年は、オリンピック・パラリンピック東京大会が開催されます。子どもたちのスポーツに対する興味・関心を高める絶好の機会です。様々な教育活動とオリンピック・パラリンピックを関連付けた取組を行い、スポーツからも多くのことを学んでいきましょう。

スポットライト!

~この人に注目~

◆大野東中学校で生徒指導主事2年目になる中次伸彦先生に今回お話を伺いました。

ー「生徒指導主事」として意識していることは?

管理職、学年、担任、SSW、SC等をつなぐパイプ役として、「報告・連絡・相談」がしやすくなる生徒指導体制の確立に努めています。

ー今年度取り組んでよかったことは?

昨年度は「無言清掃」を行い、今年度は生徒主体の意義ある取組として「縦割り掃除」に取り組んでいます。当初教職員で賛否両論はあり



大野東中学校 教諭
中次 伸彦 先生

ましたが、「掃除を通して生徒が成長してほしい」という思いで意気投合し導入に至りました。実際やってみると教職員からは好評で、掃除が有意義な時間になっています。ー教師の姿勢として大事にしていることは?

今までの習わしにとらわれず、文化は大事にしつつも新しいアイデアを取り入れ、今の学校がよくなるように取り組んでいます。座右の銘は「挑戦と感謝」です。

◆生徒指導主事として、「個別の指導計画」をもとにチームで教育相談体制の充実も図っています。課題に対してすぐに改善を図る実直さこそ、中次先生の最大の強みです!

自己有用感を高める「ほめ方」ポイント

先生方は、日々子どもをほめたり、よさを認めたりして意欲を高めておられると思いますが、その評価やほめ方が本当に子どもを育てることにつながっているか、また形式的なものになっていることはないか、ここで考えてみたいと思います。

国立教育政策研究所が作成している「生徒指導リーフ」には、評価やほめ方ことについてこのように書かれています。

単に良かった・悪かったと評価するだけの「ほめる」では、「自尊心」を育むことはできても、「自己有用感」を育むことにはなりにくいのです。

ただ「頑張ったね」だけでなく、子どもが「こたわった」「見てほしかった」点に触れましょう。
そのためにも、一人一人をきちんと見ることが大切です。

つながれ! 広がれ! 「宝の山」

ポイント

①どこがよかったのかを個別具体的に!

「すごいね」「えらいね」とほめるより、一人一人の子どもがどういふところが良いと感じたのか、どれくらいがんばったからできるようになったのか等、具体的に伝えましょう。

②行動やチャレンジした過程を大切に!

たとえ結果的に「できなかった」としても、そこに至るまで「できないかも」という葛藤を乗り越えて努力してきたはず。結果だけに注目するのではなく、過程のがんばりにも目を向けましょう。

③感謝の気持ちを言葉に!

「ありがとう」「～だから助かったよ」という言葉も、子どもからすると立派なほめ言葉です。素直に感謝の気持ちを伝えましょう。

廿深!! 『学びの変革』⑦

進んでいますか? 授業改善!

今年度も「振り返りシート」を活用して、日頃の授業の質の向上をめざした取組を進めていただいているところです。年度当初の自分の授業と比べて、子どもたちの学ぶ姿はどのように変わったのでしょうか?



「主体的な学び」を促す日頃の授業改善の視点

- 児童生徒の学習意欲を喚起させるような導入の工夫が行われているか。
- 教師が話し過ぎず、児童生徒の言語活動を充実させているか。
- 目標を達成させるために必要な協働的な学びの場を適切に設定しているか。
- 多様な考えを引き出す問の工夫が行われているか。
- 本時の目標に対応したまとめを自分の言葉で表現させているか。

◆教師の説明は、簡潔にしよう!

教師が丁寧に説明をすればするほど、子どもが説明をする場を奪ってしまうことになります。また、長い説明では、話の焦点がぼけて分かりにくくなり、児童のやる気が薄れたり学びが受け身になったりしてしまうことも考えられます。

◆大事なことは、子どもに言わせよう!

ついつい教師は大事なことを説明しがりますが、そこをぐっと我慢し、子どもに言わせようとしてみてください。そうすると、どう尋ねればよいかも見えてきて、発問の工夫につながります。

◆子どものそばで、つぶやきを聞こう!

子どものつぶやきにもっと耳を傾けたり、表情をもっと意識して見たりしましょう。そのために、まず先生が黒板から離れて、子どもそばに寄りましょう。そうすることで、子どもの考えや思いを引き出しながら授業を進めていくことができます。